

相談支援部会グループのまとめ

グループ	B グループ：重症心身障害児（者）		
メンバー	かすみ草：早野リーダー すまいる高円寺：島田サブリーダー なでしこ：藤田（島川） HUG：清水 地域福祉研究所：林 こもれび：今井 高円寺保健センター：福田 児童発達相談係：原 木の実：中田（オブザーバー） 永福学園：島田先生（オブザーバー） 地域ネットワーク推進係：白石（事務局）		
日時	内容（事例検討、見学等）	日時	内容（事例検討、見学等）
① H29.6.15	第1回 今年度の取り組み	④ H29.8.29、 8.31、10.18	中野区おでんくらぶ見学（医ケア対応の児童発達支援・放課後等デイサービス）
② H29.6.28	中野区子ども発達センターたんぼぼ見学（医ケア対応の児童発達支援・放課後等デイサービス）	⑤ H29.11.9	第2回ミーティング・見学振り返り 事例検討（動きのある医療的ケア児の短期入所）
③ H29.7.27	第2回ミーティング・見学振り返り	⑥ H30.1.25	今年度振り返り・来年度の動きを確認
活動内容・検討内容			
<p>・医療的ケア児（呼吸器装着の超重症児を含む）を受け入れている事業所、中野区子ども発達センターたんぼぼ・中野区おでんくらぶの見学を実施した。送迎ワゴンの看護師添乗や医師会との連携・訪問介護事業所の運営等、様々な工夫や苦勞を重ねながらの運営・医療的ケア児の受け入れの実態がわかった。</p> <p>・事例検討では、動きのある医療的ケア児の短期入所利用についての課題を共有し、従来の大島分類には当てはまらない現実、IQ・運動機能に加え、医療軸を加えた3次元で児を捉える考え方が出ていること、医療にサービスが追いついていない現状を確認・検討した。</p>			
結論・残された課題など			
<p>・特別支援学校において、医療的ケア児（吸引等）の通学保障がされていないため、保護者が送迎をしており、本人・家族の負担が大きい。また放課後等デイサービスでは、医療的ケア対応の事業所が区内になく、区外に頼らざるを得ない現状があり、本人が学校・家族以外の他者と関わる機会が得にくい。</p> <p>・動きのある医療的ケア児の短期入所の受け入れ先や卒業後の通所先等、医療型と福祉型の狭間にいる児童への支援、サービスが難しい状況がある。</p> <p>・就学前は区内の療育機関（こども発達センター・わかば等）に通所しているため情報も得やすく連携が取りやすいが、都立の支援学校へ入学後は状況が把握しにくい。学齢期の本人への支援・療育のためには、家族・本人・学校・事業所（相談支援事業所・放課後等デイサービス・訪問介護・訪問看護等）の情報共有をはかる必要がある。</p>			
来年度にむけて			
<p>・区内に重心児対象の放課後等デイサービスが2ヶ所開所予定。見学等を含め、事業所との情報共有・連携をはかり、より一体的な支援が出来る方法を検討していく。</p> <p>・H30 東京都予算に「医療的ケアを必要とする児童・生徒への通学支援」が新規事業として組み込まれた。都の動きを見ながら、医療的ケア児の地域生活が豊かになるために必要なことを引き続き検討していく。</p> <p>・都立永福学園との連携・情報共有・情報交換の場を検討する。在学中・卒後に向けても地域と学校との連携、情報共有の場をどのように設定できるか、構築できるかを他グループの動きも参考に検討する。</p>			